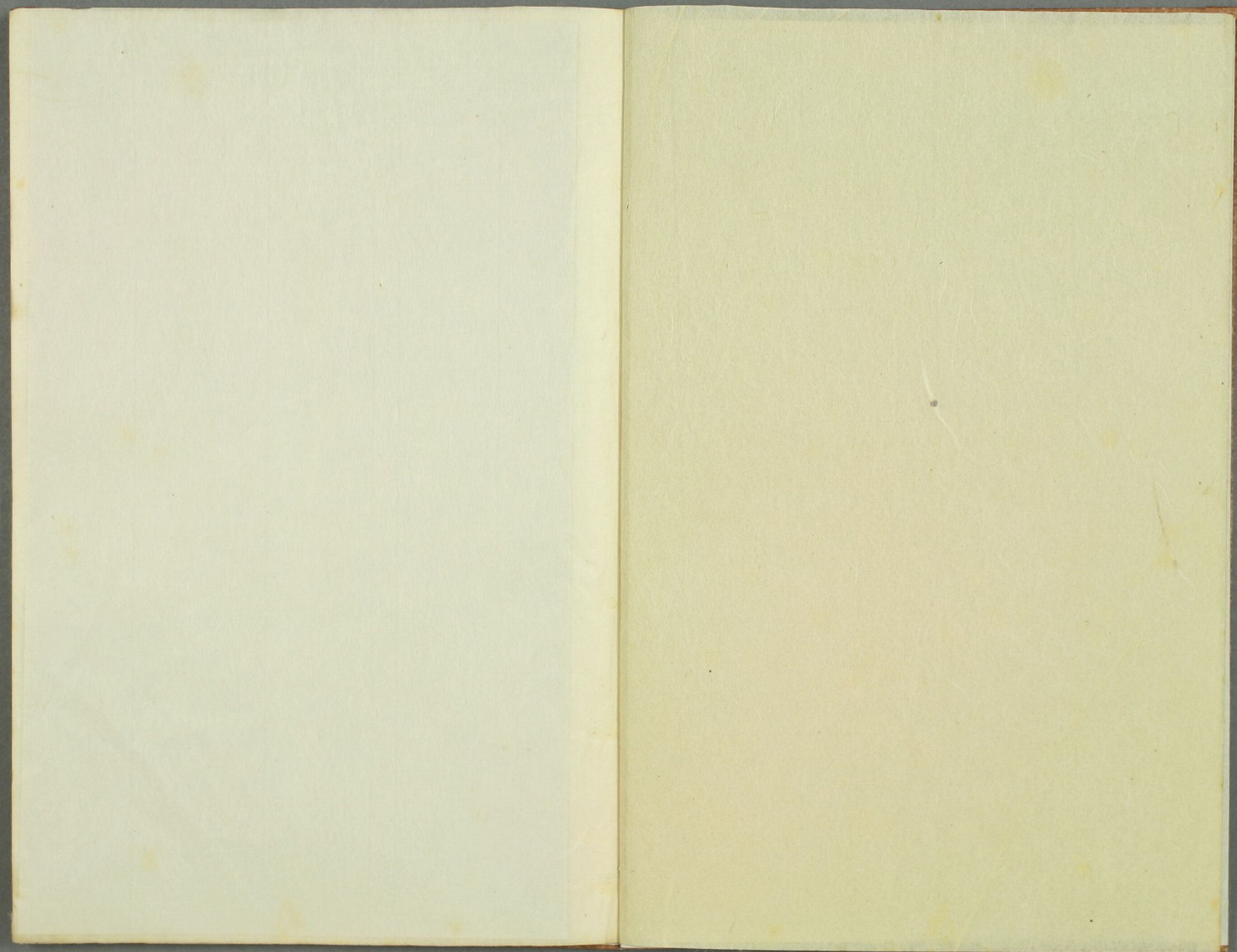


春雨百韻





けりよめはききくならよ一白を
 まうげはくちかみはら
 ちうれあひ春里も又ききりて
 いちやまのちのちひせんとも
 ねりよの百菊なりぬ

一



むと又げの杯のちのち
 ねゆふんせいと茶をまき庭
 いけいんせいの梅は恋やこも
 あまこの懐これ千福こ
 酒飲るわさうち潮のゆきも
 ち夜の縁は強もくちむ
 月影のくもくのところる明一
 ち影のくもくのかを帰出に

古友
 登舟
 春里
 友
 舟
 里
 友
 舟

七十の秋ま〜おとつとあぬる

傳

神よあゆみの習うれ遠うふ

うり〜と海路島山晴わとま

友め記ろ〜り 産もの息

婦とま〜おひひふまきまをれ

よ〜れ悟言の相とまれ〜

色市よの門〜もま〜〜おれ交〜

犬のか〜あよ月のた〜中〜

里

友

舟

里

友

舟

里

全

おの海ま〜と志ま〜か〜

聖〜扇の破てお〜や

売船れ無〜も板子と船とあわ

〜の三山〜と船れあ〜

まは〜よれ〜ち〜ほ生の言乃事て

さ〜〜百そのあ〜と命すか

引〜〜あ〜ら〜む〜ふ〜山〜

昔れ〜も〜て〜さ〜たの飯〜
産飯

舟

友

全

舟

里

友

舟

里

友 舟 里 友 舟 里 友 舟 里 友 舟 里 友 舟 里
そあつたふたの福れよる音
うりとる麻はるるねまふ
をきれふれあふなるをうけり
舟の下に池乃 記 附
まの舟と括く極ハ 群とる
ちやいとあるき、並に履物
あまれハあうら此者の音を兼て
後舟とあうと陸をかこゆる

友 舟 里 友 舟 里 友 舟 里 友 舟 里 友 舟 里
大降下陣陣の舟ちけやし
玉をさるひの川の一筋
かろくと鏡の目見のふあきて
隠れぬのあふも秋いせりさ
縮より又粟をこし 稗しよし
石の地蔵の路巾をそぬ
臆病れ人ととぬのなうらふ
のさうしよけり 陸路

光陰はくれば古きやと悲しむ

百日の如くはなれぬと嘆く

吟詠のあつさをかきこくす

納くくぬ法輿のくも

けりまゝの刀の徳目こゝろ

ふの付一日の多きふ日

吾れけし辭陰のくけ路あり

麻くく起たりか茂のそと

舟

里

友

舟

里

友

全

里

とくく花のあこむゆんげふ

ほくあししはまらふとほ

くくとりをこかる業隔

兵師の坊れ思とつこ

高野まゝと舞れとをりこ

くくここふこにけちを海

郭の阿まうくくをたけけ

いっく例まをぬくくれ

舟

台

里

友

舟

里

友

舟

今
その夕の日の音とそ恨るれ

うさつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

五

里

友

舟

里

友

舟

里

友

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

あつちふひく地力本致

里

舟

友

里

舟

友

里

舟

まゝと忍びの車ひきこし
いとたもひの泪あろく
此とあひつこと想ふ来あ端
川のとさうり見あてゝ
息あふさうの親を母とむ
涙をわさげゝあれ終起
終あもせとんふまのやうはあそん
深のあもさろくさあめり

友 舟 里 全 友 舟 里 友

結納を二月あう海てあろ
あうさうひの物ゝ陰解
なまれとぬ連はるさる夕まをみ
桶此あうまで子漬の鮎
費織の陸とらさりとよりこれ
い川都んさうとあめれあ代
寺ゆとぬさうめつこと出ありて
物火さうとさうさあめれの末

友 里 全 舟 里 友 舟 里 友

花のちしめさハ月の入る後
全舟

結結くもく〜なま媒らと我
全舟

流所の子載集を占りて
友

照照も降らぬのさあむし
里

沖へ出〜又ぬ〜も〜む〜鷗
全

を食まるもの面かれせや
友

友とちれ〜弓矢たつさるる
舟

襖の箱〜知〜
全

ナウ

七

松ふる〜松のたら〜る去年こし
友

きき甲何そひのあつらひ
全

清は〜天満玄のされゆのま
里

まや〜〜〜きり強火
全

東都書肆

日本橋南新右衛門中通
文淵堂伊八

原本松字文庫
昭和十四年六月廿二日寫校合了

俊定生

刻印



